

# Fuji Learning Information No. 13

2017年6月15日  
旭川藤女子高等学校

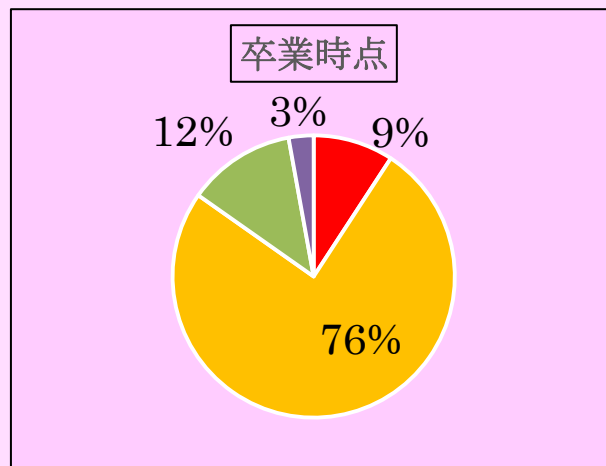
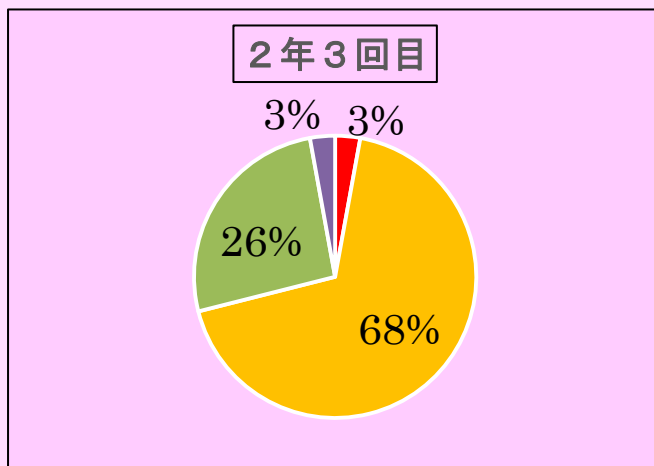
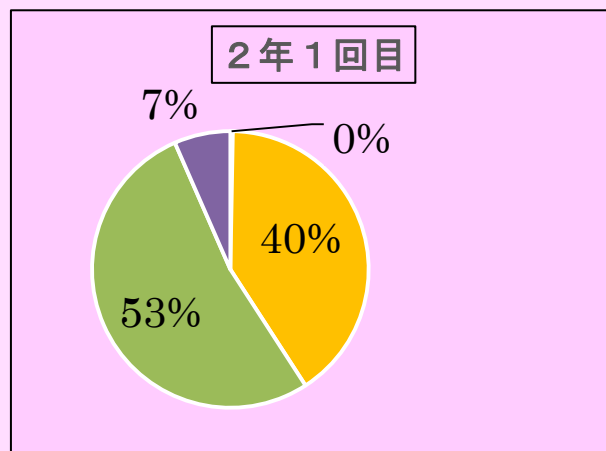
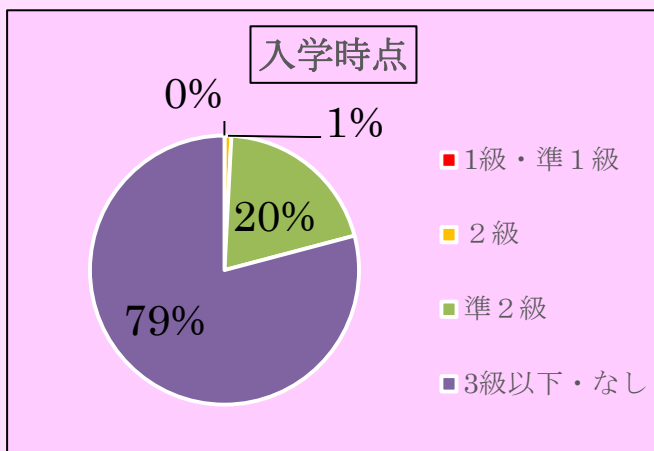
前回に引き続き、ULコースについて紹介します。今回は、英語力や学力面についてです。

## 英語力のレベル

ULコースの生徒の英語力をみるため、英検の取得状況とGTEC（英語コミュニケーション能力テスト）からその状況を見てみたいと思います。

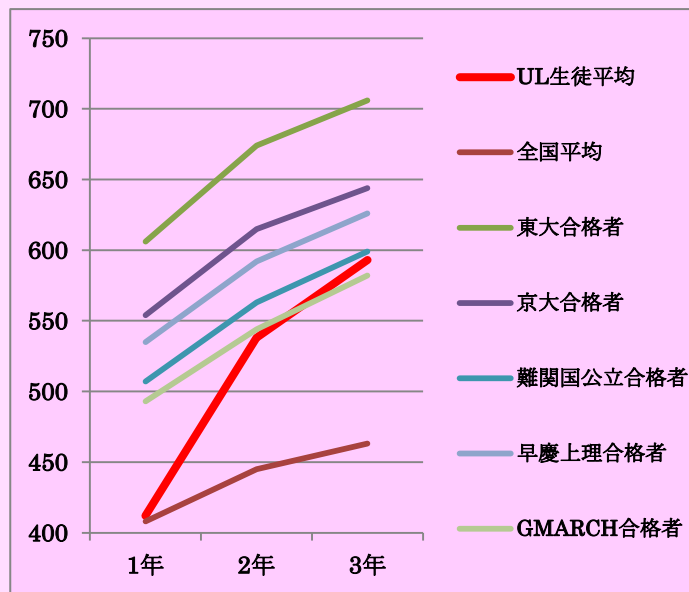
ULの1期生から現在の2年生までの英検取得状況は、以下の通りです。入学直後は、準2級以上の取得は2割程度ですが、3年間のULコースのプログラムを経て、1級・準1級・2級までの合格者は全体で86%にのぼり、多くの大学が推薦基準として示している基準（2級以上）を満たすレベルに達していることがわかります。ULの卒業時点のGI（ゴールイメージ）は準1級取得ですので、まだまだレベルアップが必要な状況がありますが、全体が高いレベルで底上げされていることがわかります。ちなみに準1級レベルとは、現在、日本の英語教員が求められている英語力レベルです。その力をつけて卒業する生徒も一定層いることに着目していただければと思います。

また、リスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力の4技能をはかるGTE



C (1000点満点) を継続的に実施しています。ULコースの入学時点のスコア412点は全国平均レベルですが、3年時のスコア593は、北大などの難関国公立合格者群に匹敵するレベルにあることがわかります。また、3年間の伸び幅は181にのぼり、他のどの合格者群と比べても高いことがわかります。これは、ULコースのプログラムの成果と言えると思います。

	1年	2年	3年	伸び
UL 生徒平均	412	538	593	181
全国平均	408	445	463	55
東大合格者	606	674	706	100
京大合格者	554	615	644	90
難関国公立合格者	507	563	599	92
早慶上理合格者	535	592	626	91
GMARCH 合格者	493	544	582	89



\*ULコースの数値は過去5年間(2016年現在)の平均値。その他は(株)ベネッセコーポレーション提供資料より作成。

\*2011~2013年度入試において、大学に合格各した受験生の平均スコア。

\*早慶上理：早稲田大、慶応大、上智大、東京理科大の略。

\*GMARCH：学習院大、明治大、青山学院大、立教大、中央大、法政大の略。

## 民間試験の役割

2020年度に始まる大学入試センター試験に代わる新テスト「大学入試共通テスト」では、英語に民間の資格・検定試験を導入する方向性が出てきています。英語の4技能を重視する評価に舵が切られることになり、ULコースの生徒の英語力がさらに活かされる可能性が出てきました。

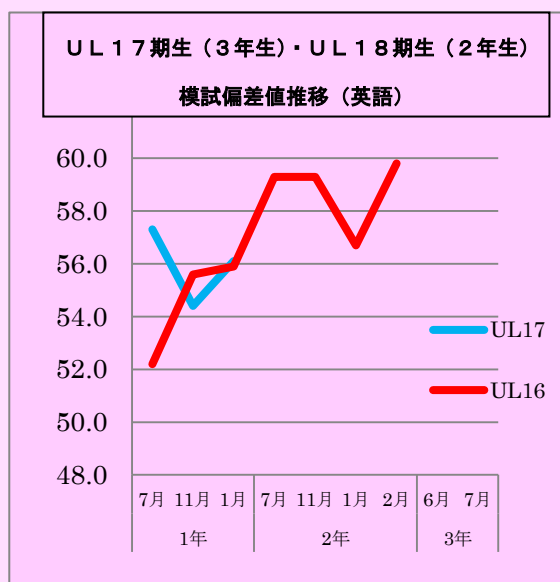
## 模試の英語力結果

ULコースの2, 3年生の進研模試結果の推移です。上記の英検、GTEC結果の伸びと一致するように、高いレベルでの伸びが見られます。クラスの偏差値としては、2年2月のセンター模試ではほぼ60であり、市内公立のトップ校に迫るレベルです。また、リスニングの偏差値は66.9というハイレベルです。

英語を武器に国際社会で太刀打ちできる人材を育てて行こうというのがULコースです。高いレベルで国際社会に立ち向かうための更なるレベルアップは必須です。

## 学び改革とULコース

学び改革とULコースの考え方に共通するのは、学びのモチベーションを高めたり、学ぶ意欲に火をつけることで、自ら考え学び始める生徒を生み出してゆくことです。その意味で、ULコースは早い段階から時代の先端をゆく考え方を実践してきたと考えています。



使える英語力というレベルでは、昨年、ULコースの2年生が全国英語スピーチコンテストで文部科学大臣杯（最優秀賞）を受賞した生徒が出たのも、ULの理念の具現化であり、学び改革の一つの成果だと考えています。

### **着実な学力向上**

模擬試験の結果をみても、着実な向上がみられます。

英語の偏差値の推移を見ると、2年生後半の段階では、市内の高校の中でもトップクラスになります。

また、英国の偏差値の推移をみても、上昇カーブを描いており、伸び率の高さが際立つ生徒も多くいます。高いレベルの進路実現を図れるように